

【 40 】

氏名 国 米 欣 明

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 乙 第 616 号

学 位 授 与 の 日 付 昭 和 49 年 6 月 30 日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者
(学位規則第 5 条第 2 項該当)学 位 論 文 題 目 同種移植における宿主リンパ組織系の反応に関する研究
I. 同種移植細胞に対する体液性および細胞性反応について
II. 同種皮膚移植片に対する細胞性反応の³H-thymidineを用いたオートラジオグラフによる観察

論 文 審 査 委 員 教授 砂 田 輝 武 教授 妹尾左知丸 教授 小 川 勝 士

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

同種移植時の宿主リンパ組織系における細胞性反応を、血清抗体産生系と非産生系において比較検討するために(A)系マウスとC3H系マウスにおいて、細胞交換移植を行って経日的に追求した結果、血清抗体産生系であるC3H系マウス宿主ではorgan-enlargement assayによる主たる反応臓器は脾と肝であり、局所リンパ節および脾に形質細胞の増生が著明で、この増生反応は血清抗体出現時期よりも先行していること、血清抗体非産生系である(A)系マウス宿主ではorgan-enlargement assayによる主たる反応臓器は胸腺と脾であり、リンパ系組織での形質細胞の増生は軽度であること、また宿主リンパ系組織においては全身性にreticulum cellおよびhemocytoblastの増生が認められたが、両者の系において反応パターンには差のないことを明らかにした。(第I編)。次いで(A)系マウスの皮膚をC3H系マウス背部に移植し、宿主リンパ系組織の細胞増生反応をオートラジオグラフによって経日的に追求した結果、細胞増生反応は移植後4日目にまず局所リンパ節および胸腺に出現し、さらに数日遅れて脾および遠隔リンパ節に波及すること、特に胸腺における細胞増生反応は他のリンパ系組織におけるよりも数倍強く、しかも長く持続すること、胸腺中で増生するのは主に中および小リンパ球であることを明らかにした(第II編)。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、同種移植における宿主リンパ組織系の反応について研究したもので

あるが、同種移植の場合において、未だ報告をみない宿主リンパ系組織の細胞性反応と血清抗体反応両者の同時検索を行ない、しかも経日的に消長を追求し、移植反応の動態解明に重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。